授業科目名	ソーシャルワークの基盤と 専門職（専門）	単位数	2
担当教員名	矢原　絵理	担当形態	単独
実務内容 （実務家教員の場合）	社会福祉士として福祉現場の経験がある教員が、実践的視点からソーシャルワークについて解説する。		

「学位授与の方針」との関係

星槎大学は、「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束のもと、「人と人、そして人と自然とが共生する社会の創造に貢献する」を教育理念としています。共生科学部は、この三つの約束、教育理念に基づき、「21 世紀を創造する広く深い知の涵養」「共生する心の耕作」「課題探究能力の育成」「インクルージョン教育に基づいた社会実践を担い、社会変革を目指す人材の養成」を教育目的とし、以下の「星槎共生スピリット」を身に付けたものに学位を授与します。

A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。
B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。
C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。
D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。
E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。
F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。

授業の到達目標及びテーマ

（１）社会福祉士の職域と役割について理解する。
（２）ソーシャルワークに係わる専門職の概念と範囲について理解する。
（３）ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と関連性について理解する。
（４）総合的かつ包括的な支援と多職種連携について理解する。

授業の概要

この科目では「ソーシャルワークの基盤と専門職」で学んだ社会福祉士はどのような役割を担うのかということを踏まえ、現代の社会福祉のニーズに沿ったソーシャルワークに係わる専門職のそれぞれの職域と役割を押さえる。また諸外国の動きから、日本の現状に、どのようなサービスや専門職のあり方が期待されるかということへの考察を深める。また「ソーシャルワークにおけるミクロ・メゾ・マクロ」の実践について、個人と環境及び両者の相互関係に着目しながら学んでいく。今日のソーシャルワークのあり方として求められる「総合的かつ包括的な支援」のために必要な「多職種連携」や「チームアプローチ」について、事例を交えながら理解し、実践力につなげていく。

授業計画

第１回：ソーシャルワーク専門職の概念と範囲
第２回：社会福祉士の職域と役割

第３回：多様な組織・期間・団体における専門職
第４回：諸外国の動向①
第５回：諸外国の動向②
第６回：ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークのレベル
第７回：ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象
第８回：ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの課題把握
第９回：ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの実践の展開と考え方
第１０回：ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの支援の実際
第１１回：総合的かつ包括的な支援の必要性
第１２回：総合的かつ包括的な支援①ジェネラリスト・ソーシャルワーク
第１３回：総合的かつ包括的な援助②ソーシャルサポートネットワーキング
第１４回：総合的かつ包括的な援助③多職種連携・チームアプローチ
第１５回：本講義のまとめ
定期試験

学修内容
レポートテーマ：「授業計画」の第１回から第 14 回までの学習内容について、テキストの第１章と第６章～第８章まで自己学修する。
科目修得試験：レポートについても添削指導を受け、レポートに合格したうえで科目修得試験を提出する。

教科書
『最新・社会福祉士養成講座　精神保健福祉士養成講座　ソーシャルワークの基盤と専門職』中央法規出版

参考文献
（１）川村 隆彦『価値と倫理を根底に置いたソーシャルワーク演習』中央法規　２００２年
（２）川村 隆彦『事例と演習を通して学ぶソーシャルワーク』中央法規　２００３年
（３）川村　隆彦『支援者が成長するための５０の原則　あなたの心と力を築く物語』中央法規　２００６年
（４）三島 亜紀子『社会福祉学の＜科学＞性　ソーシャルワーカーは専門職か』勁草書房　２００７年
（５）武田 建・津田 耕一『ソーシャルワークとは何か　バイステックの７原則と社会福祉援助技術』誠信書房　２０１６年

学生に対する評価
レポート評価（５０％）、科目修得試験（５０％）を総合して評価する。